

深刻な老人問題

求められる老人への理解

老人福祉法では六十五歳から老人としています。

わが国の人口構造は、これから急速な老齢化の道をたどるといわれています。厚生省の人口問題研究所の推計では、六十歳以上の人口が現在の十一割から二十五年後には十九割になり、三十五年以降は二十三割という高水準で推移するという。現在はその老齢化社会の入口にたつてあります。

若い者にもいつかはくる“老い”的問題。

十五日は「敬老の日」。



みんなで考えよう 老後の暮らし

率は男性が世界九位、女性が世界一だといわれます。

週休二日制の声が高っている時

和三十八年に制定された老人福祉法は「老人は多年にわたり社会の発展に寄与してきた者として敬愛され、かつ、健全で安らかな生活を保障されるものとする」とそ

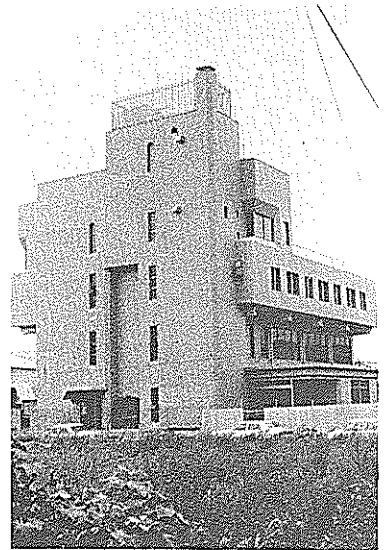
の基本的理念を述べています。

た方がよいと考えています。昭和三十八年に制定された老人福祉

法は「老人は多年にわたり社会の発展に寄与してきた者として敬愛され、かつ、健全で安らかな生

活を保障されるものとする」とそ

の基本的理念を述べています。



大切な心と心のふれあい

ヨーロッパには“ステップのさめない距離”という言葉があります。お年寄りと内親がステップのさめない距離に住み、心と心のふれあい、交流を保つ大切さを言い顕わしていきます。また、別居をしていても、お互いに交流をはかり、常に心のふれあいをもつていていますが、同居できない理由には、住宅事情に根ざした問題があります。

市の 老人福祉

南国市には現在、五千七百人はお年寄りがいます。市は市政の基本方針として「生命とくらしを守る市政」をかかげ、長い月を郷土のためにつくされてきたお年寄りに、しあわせな余生を送っていただきたいと、老人福祉対策をすすめています。

これには、土佐清風園など特別養護老人ホームや一般老人ホームにおられる人に対する扶助費、市独自の老人年金、老人医療費助成制度、愛の一声運動、高齢者教室など、さまざまな角度から老人福祉の充実にとりくんでいます。

また、待望の福祉センターがこの九月に完成の予定です。福祉センターは、市内の老人クラブからおこつた“老人にいこいの場を”という声が大きくなり、「青年には明日がある、老人にはいますぐ暖かい手をさしつけてあげたい」と総事業費、二億三千万円で、水道局北側に建てられました。この完成によって、お年寄りの交流、いこいの場に活発に活用されることでしょう。

これからもお元気で



市一番の長寿者
山下須磨さん
98歳

市一番の長寿者

市内一番の長寿者、山下須磨さん、明治十年九月三十日生まれ、九十八歳。入道芸の湧く登せり、下島浜のお宅をたずねました。須磨さんは、耳が少し遠いのは、これといって悪いところではなく、元気な様子、健康のことを尋ねると、「自分のまわりのことなら洗濯ぐらいはできます」との返事。「家族の方も見え、針仕事も自分でやれます」というほど元気さです。

「夜でも、灯があれば一里ぐらいは歩けます。お寺さんへ杖をついておまいりにゆけます。ありがたいことです」と深く合掌する須磨さんです。来訪を告げた時も、「私のためにこの暑い中を、すみません」と丁寧に頭を下げられた。須磨